

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.234**  
**企業の成長を追求**  
ROS 株式会社 代表取締役 CEO 藤本 和之
- 5 **地域リレーションシップ情報 232**  
**沖縄総合事務局経済産業部の取組について**  
**『省エネルギー促進に向けた広報事業』**  
**～各種イベントを開催しました～**
- 6 **沖縄県民の自動車購入における動向調査**
- 12 **けいざい風水**
- 14 **おきぎんカトレアクラブ通信**
- 16 **県内景況・確報**  
2024年1月の県内景況
- 24 **国内景気動向**
- 26 **沖縄マーケティング情報**
  - ①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
  - ②世界の中の沖縄(年次)
  - ③グラフでみる沖縄経済
  - ④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 46 **経済社会のできごと** (沖縄、国内・海外)  
2024年2月



表紙写真/ゆりまつり

## 企業の成長を追求

**ROS** ROS 株式会社  
(旧社名:株式会社琉球オフィスサービス)  
代表取締役 CEO 藤本 和之



今回は、自ら沖縄の経済や労働分配率の向上を目指すパイオニアとして取り組んでいる ROS 株式会社の代表取締役 CEO 藤本 和之氏に、その背景や想い、県内中小企業の経営者に伝えたいことについてお話を伺って参りました。

### 沖縄の市場は十分に大きい

私は、ROSを起業する前は、本土上場企業の情報通信系商社で働いていました。地方での現地法人の立ち上げに関わる経験が豊富で、沖縄に転勤した際に地域の活気と成長に触れ、起業を考えるようになりました。沖縄は他の地方と比べて景気が上向きで、人の流入もあり、地理的な要因もありながら競争相手が少なく、市場は十分に大きいと感じました。

最初はウェブ制作というよりも、中小企業向けにサブスクリプションで提供するサービスを考えていました。中小企業市場に焦点を当てたベーシックなサービスが不足していると感じ、特に中小企業の課題やニーズに注目しました。中小企業にとっては初期費用やその投資リスクが大きなハードルであるため、サブスクリプションモデルの採用が重要だと考えました。

その結果、2010年4月に会社（旧社名：株式会社琉球オフィスサービス）を設立し、中小企業向けにシンプルでリーズナブルなホームページ制作サブスクリプションサービスを提供し始めました。

### 格安ホームページ制作

私たちの提供するホームページは、制作などの初期コストだけでも1件あたり15万~16万円程度かかっています。初期費用は私達が負担し、お客様からの収益は月額約8,000円から13,000円が回収されるサブスクリプションのビジネスモデルを採用しています。そのため最初の2年間は赤字が続き、3年目から黒字に転じるビジネスモデルとなっています。

現在約4,000件の契約があり、継続契約が県内外で得られており、解約も発生しますが、新規契約がそれ以上にあるため、ビジネスは安定的な成長を続けて14期目に入ります。技術者が50人ほど在籍し、制作効率や経験値を積み上げながら、中小企業向けのウェブサイト制作において信頼性のあるパートナーとしての競争優位性を有していると認識しています。

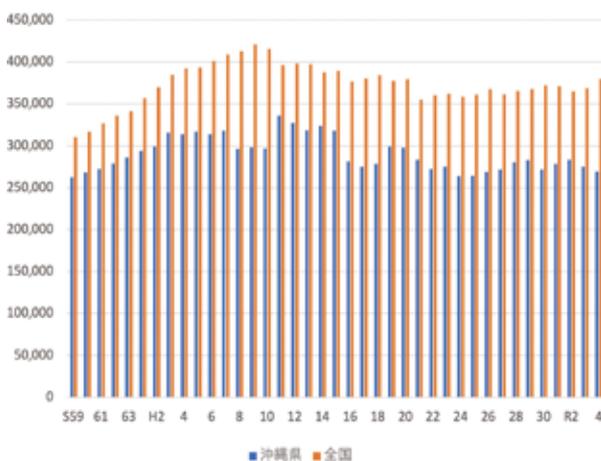


## 成果が再現性と拡張性を持つ場合に、「沖縄県で最も優れた企業」と呼べる

私たちは、自らを中小企業であり、地方の一員として位置づけ、そのアイデンティティに強くこだわっています。中小企業でも成長や利益を上げることができる可能性があり、大企業やスタートアップだけが成功するわけではないとの信念を持っています。沖縄に根付き、商売を続けながらも、地域の所得の低さを認識し、企業が給与を引き上げることが地域全体の繁栄に寄与すると考えています。

経済の観点から見ても、企業が従業員に十分な給与を支払うことが地域の繁栄に繋がると信じており、沖縄の所得が低い主な原因は中小企業での労働者の給与水準が低いことにあると考えています。

月間平均賃金の推移（事業所規模30人以上）



資料：毎月勤労統計調査

私は、利益を追求し、高い給与を支給するだけでなく、その成果が再現性と拡張性を持つ場合に、「沖縄県で最も優れた企業」と呼べると考えています。

当社ROSは、新卒の給与を30万円スタートとしています。他の企業にも影響を与え、給与水準の向上につながる可能性があると考えています。

給与を引き上げることが利益を生みやすくなるという実感や経験があれば、経営者は給与の

引き上げに積極的になるでしょう。また、給与の引き上げが進むスピードを速めるために、成功した事例が共有されることが重要だと考えています。

私たちは、自らの事業が沖縄の経済や労働分配率の向上に貢献できる可能性を期待し、自らがその一端を担うことを誇りに思っています。



## 企業の成長の追求は、経営に有益

給与の引き上げは、経営者が自身に投資する重要な要素です。低い給与での経営は難易度が高く、適切な給与を提供することで経営はスムーズに進み、業績向上につながります。適切な給与を提供することは、モチベーションの維持や優秀な人材の引き寄せにつながり、経営者自身にとって有益です。

また、企業の成長を追求することも有益だと考えます。1,000万円の利益を上げても、その利益を再投資しない限り、成長の機会を逸する可能性があります。成長を目指すことは、安全で持続可能な選択肢であり、現状維持は逆に困難で茨の道だと考えます。企業を成長させることで、将来の不確定要素に備えることができます。結局、成長を追求することは1人当たりの年収にも波及し、社会全体にポジティブな影響をもたらすことが期待されます。

沖縄は、ともすれば安価な労働力の調達地のように捉えられますが、私たちはスタッフとそ

のご家族が当社で働いてよかったと感じてもらえる労働環境をこれからも追求していきます。そして、県内の情報関連企業の中で、最も強い収益力を実現したいと思います。

## 県内の大半を占める中小企業の経営力向上が、そこで働く多くの人のくらしを変える

2019年10月、私が代表取締役を務めるファンド事業会社SCOM株式会社を地元の経営者と立ち上げました。

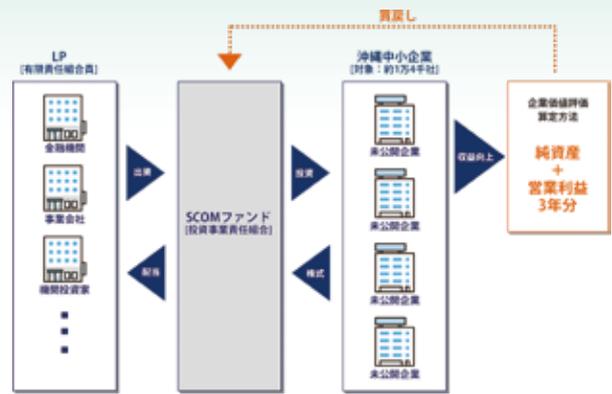


▲左から株式会社Payke CFO 比嘉良寛氏、ROS株式会社代表取締役CEO 藤本和之氏、株式会社上間フードアンドライフ代表取締役会長 上間喜壽氏

SCOMでは、県内の中小企業（SMB = Small and Medium Business、Small to Medium Business、Small and Midsize Business）に出資し、戦略の立案や資金調達、人材採用、マーケティングや財務・会計など、経営に必要なことを、株主として、そして県内の経営者仲間として、近い距離で継続的にハンズオンします。ハンズオンすることにより、持続的に利益を出し、スタッフや社会にきちんと還元できるSMB群をつくっていきたいと思っています。

強いSMBが10社、100社と増えれば、そのスタッフが300人、3,000人となり、その家族1,000人、10,000人のくらしを、実効性のあるレベルで変えることができると考えています。

出資先はさまざまな業種にわたり、例えば島豆腐の製造店、高齢者向けの配食事業、接骨院、石鹸の小売店などに投資が行われています。



▲SCOMファンドの概要

2022年6月、「SCOM沖縄テーマパーク投資ファンド」を組成し、同年9月に森岡毅氏率いる株式会社刀が推進する、沖縄北部テーマパーク事業へ投資しました。「沖縄の未来を変えるテーマパークの誕生と成長の当事者へ」をテーマとし、法人・個人を問わず、沖縄県内はもとより、沖縄へ深く関心を寄せていただく県外在住の方からもご出資をいただきました（総額15億6千万円 出資者数24先）。

## 企業情報

|             |   |
|-------------|---|
| 会社名         | ROS 株式会社<br>(旧社名：株式会社琉球オフィスサービス)                          |
| 役員          | 藤本 和之 代表取締役CEO<br>遠藤 良 取締役COO<br>仲尾次 史 取締役SMBソリューション事業本部長 |
| 設立          | 2010年4月   |
| 資本金         | 3,000万円   |
| 従業員         | 約80名 (2023/6現在)   |
| 所在地         | 〒901-2131<br>沖縄県浦添市牧港4-11-3 おきでん牧港ビル3F                    |
| TEL/<br>FAX | TEL 098-894-6900 FAX 098-894-6901                         |
| E-mail      | info@r-os.com   |
| グループ<br>会社  | SCOM株式会社<br>株式会社徳島新聞オフィスサービス                              |

# けいざい 風水



## 新・沖縄21世紀ビジョン 基本計画

労働生産性向上の源泉

おきぎん経済研究所  
永田 健志

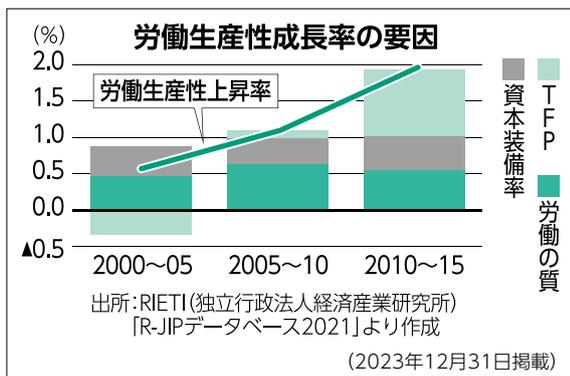
「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」では、県民所得の着実な向上により県民が経済的な豊かさを実感できるよう、労働生産性の向上を目標の一つとして掲げています。労働生産性は、労働者1人当たりどれだけ成果を生み出したかを表しており、県民所得への影響が大きい要因とされています。

労働生産性の向上に影響を与える要素とは何か。労働生産性の成長率は(1)労働の質上昇(学歴や勤続等による質の向上を表す)(2)資本装備率上昇(労働者1人当たり割り当てられる資本ストック(建物・機械、ソフトウェア等)の量が多くなると労働生産性が向上すること)(3)TFP成長率(労働や資本といった生産要素以外で成果に寄与する部分。具体的には技術進歩や組織の効率化等)の三つに分解することができます。

2000年以降における沖縄県の労働生産性成長率の要因を見てみると、労働の質上昇と資本装備率上昇の寄与は、ほぼ一定に推移していることがわかります。一方で、TFP成長率の寄与は各期間のばらつきが大きく、TFP上昇が労働生産性の向上を決定づける主な要因となっていることがわかります。

TFPの動向については、10~15年の期間に大幅な成長が見られました。同期間においては観光客数の増加に伴う景気拡大や政府の沖縄振興策といった外部環境の変化が見られた期間でもあります。

これらの要因がTFPの上昇をもたらしたのかを明らかにするには、当時の沖縄経済の状況等を鑑みながらより詳細な分析を行う必要があります。



## 沖縄でバニラビーンズ 栽培

新たな特産品化に期待

沖縄銀行 北中城支店 支店長  
國吉 明子

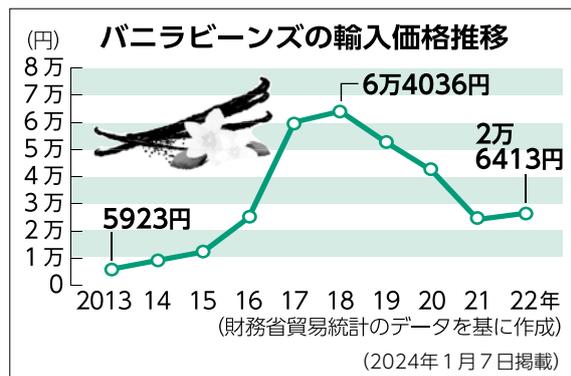
近年、世界で高騰するバニラビーンズの価格をご存じでしょうか。

約10年前、1キログラム当たり5千円程度だったバニラビーンズの輸入価格(輸入金額を輸入数量で割ったもの)は、2018年には銀よりも高い6万円台を記録。21年以降、価格は下がったものの2万円台で推移し、市場流通価格に至っては6万~8万円で取引されています。

価格高騰の主な原因は、バニラビーンズの生産シェア約8割を占めるマダガスカルにおいて、サイクロンや干ばつなどが発生し、生産量が落ちたことでしたが、近年は消費者の高級ホンモノ志向、自然派食品への関心の高まりにより需要が増加したため、市場流通価格は高価格帯で推移しています。

そして、まだイメージが薄い方も多いかもしれませんが、ここ沖縄県でもバニラビーンズがさまざまな農家や企業によって栽培されています。私の勤務先がある北中城村では、就労継続支援A型事業を営む事業所が障がい者雇用の場としてバニラビーンズを栽培しています。

バニラビーンズの栽培は、商品価値を左右するバニラ独特の甘い香りを引き出す発酵工程(キュアリング)が非常に難しいとされています。しかし、研究などを進めることによって高品質なバニラビーンズができれば、近い将来、香り豊かな沖縄県産バニラビーンズを使ったスイーツがお目見えするかもしれません。バニラを使用した製品が新たな沖縄県の特産品になることを期待したいです。





## 感動資源、うるま市闘牛

物語添え「特区」宣言

沖縄銀行 与勝支店 支店長  
國吉 真仁

「ヒーハイ! ヒーハイ!」場内に響き渡るヤグイ。激しくぶつかり合う雄牛の巨体。舞い上がる土煙。「ウシオーラセー」と呼ばれる沖縄闘牛は、古くから大衆娯楽として人々に親しまれてきました。

互いの角を突き合わせて押し合うように闘い、「逃げたら負け」というシンプルなルールです。「押し」や「カケ」、「腹取り」などの技があり、数十秒で勝負が決まることもあれば、30分を超える取り組みになることもあります。勝負どころでは、闘牛士のヤグイに一層力が入り、時には背中を叩いて牛を鼓舞することもあります。勝敗の行方を左右すると言われる闘牛士の動きに注目してみるのも闘牛観戦の楽しみ方の一つです。

「闘牛のまち」うるま市では、年間20回にわたる闘牛大会が開催されており、中でも年3回開催される全島大会は、毎回3千人を超える観客でにぎわい、立ち見が出るほどの盛況ぶりです。最近では外国人や観光客の観戦も増えています。

うるま市は、2023年4月に国内初の「感動産業特区」宣言を発表しました。地域に数多く存在する豊かな自然や文化・芸能に「感動」の物語を添えて魅力を発信することで市の魅力をさらにPRするための取り組みです。

闘牛もその「感動資源」の一つと期待されています。普段はおとなしく心優しい牛たちが、試合になると迫力満点の闘いを繰り広げます。そこに「感動」が生まれます。まだ見たことのない方、ぜひ一度会場に足を運んでみてはいかがでしょうか。

主な闘牛大会の開催スケジュール

|     |           |
|-----|-----------|
| 1月  | 新春闘牛大会    |
| 2月  | 旧正月大闘牛大会  |
| 3月  | 弥生闘牛ダービー  |
| 5月  | 春の全島闘牛大会  |
| 6月  | 父の日闘牛大会   |
| 8月  | 夏の全島闘牛大会  |
| 10月 | うるま祭り闘牛大会 |
| 11月 | 秋の全島闘牛大会  |

※出所…一般社団法人 うるま市観光物産協会HPより作成  
※他にもさまざまな大会が開催されています。

(2024年1月14日掲載)



## 沖縄の高いバスケットボール人気

経済波及効果に期待

沖縄銀行 本部支店 支店長  
當間 盛大

2023年8月、FIBAバスケットボールワールドカップ（W杯）が沖縄アリーナで開催されました。世界32カ国のチームが参加した今大会は日本・フィリピン・インドネシアの3カ国5会場で同時開催され、世界中からトップレベルのバスケット選手が世界一を目指しました。日本代表は格上のフィンランド戦の大金星を含む3勝を挙げ、1976年モントリオール大会以来、48年ぶりとなる自力での五輪出場を決め、大きな盛り上がりを見せました。

経済的な面でもW杯は重要なイベントで、県全体で63億円の経済効果が期待されていました。また、W杯効果で、これまでバスケットボールに興味のなかった新しいファンの獲得により、バスケット人気はさらに高まっています。

バスケットボール男子Bリーグ1部（B1）琉球ゴールデンキングスの1試合平均入場者数は7千人以上を記録しており、高いバスケット人気うかがえます。さらに、映画「THE FIRST SLAM DUNK」で、主役である宮城リョータの沖縄ルーツが明らかになり、県民のバスケットへの興味を一層高めました。

5月に琉球ゴールデンキングスがBリーグで初の年間チャンピオンとなり興奮冷めやらぬ中、8月にW杯開催。沖縄アリーナは本場アメリカのプロリーグNBAのような雰囲気評判です。バスケットを絡めた観光地・沖縄のポテンシャルは、まだまだ計り知れないものがあります。今年も沖縄バスケット界による経済波及効果に期待し、観戦を楽しみたいと思います。

### B1リーグ 2023-24シーズン平均入場者数 上位5チーム (2023年11月5日時点)

| 順位          | チーム名            | 平均観客動員数(人) |
|-------------|-----------------|------------|
| 1位          | 琉球ゴールデンキングス     | 7,140      |
| 2位          | アルバルク東京         | 6,527      |
| 3位          | 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ | 5,487      |
| 4位          | 宇都宮ブレックス        | 5,020      |
| 5位          | 群馬クレインサンダーズ     | 5,014      |
| B1 24チームの平均 |                 | 4,398      |

※出所…Bリーグ公式サイトより作成  
※10/25の試合データを除く

(2024年1月21日掲載)